

2022年4月25日

株主各位

## 第27回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示情報

### 目次

「会計監査人の状況」	P.1
「業務の適正を確保するための体制 及び当該体制の運用状況の概要」	P.2
「連結株主資本等変動計算書」	P.5
「連結注記表」	P.6
「株主資本等変動計算書」	P.15
「個別注記表」	P.16

上記の情報につきましては、法令及び当社定款第18条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.treasurefactory.co.jp/>) に掲載することにより、株主のみなさまに提供しております。

**株式会社トレジャー・ファクトリー**

## 会計監査人の状況

(1) 名 称 有限責任 あずさ監査法人

### (2) 報酬等の額

当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	37,200千円
当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	37,200千円

(注) 1. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行った上で、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

### (3) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められるときは、監査役会による協議を経て、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役が、解任後最初の株主総会において解任の旨及びその理由を報告いたします。

### (4) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人は、会社法第427条第1項及び当社定款規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。会計監査人が、当社に対し損害賠償責任を負う場合において、会計監査人がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金200万円又は法令が定める額のいずれか高い額を当該損害賠償責任の限度とするものとしております。

# 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況の概要

## 1. 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

### (1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①取締役会は、企業行動憲章を制定し、当社及び子会社にこれを周知徹底する。
- ②取締役会は、コンプライアンスに係る規程を制定するとともに、内部統制委員会を設置し、コンプライアンスに関連する方針の立案及び上申を行わせ、もって役員及び使用人のコンプライアンス意識の維持・向上を図る。
- ③取締役会は、コンプライアンスに係る統括責任者として担当取締役を選任し、子会社を含めた全社的な管理を行う。
- ④監査役は、監査役監査基準等に基づき、取締役会に出席するほか、業務執行状況の調査等を通じて、取締役の職務の執行を監査する。

### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

株主総会議事録及び取締役会議事録等の法定文書のほか、重要な職務執行に係る文書及び情報につき、文書管理規程及び情報管理規程等必要な規程を制定し、これらの規程等に従い情報を適切に保存及び管理するものとし、必要な関係者が閲覧できる体制とする。

### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

事件、事故及び自然災害その他経営に重大な影響を及ぼすリスクに備えるため、内部統制委員会を設置し、想定されるリスクの洗い出しと予防策の策定、並びにリスクが発生した際の危機管理体制を整備する。

### (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①取締役会は、中期経営計画及び年次経営計画を策定し、各部門は当該計画の達成のために適切な運営活動を実施する。
- ②取締役会は、業務分掌規程及び職務権限規程、稟議規程等を制定し、これらの規程に基づき使用人に権限を委譲し、決裁権限を明確にすることにより、職務の執行を円滑なものとする。
- ③業務執行の管理・監督を行うため、定例取締役会を月1回開催するほか、必要に応じ臨時取締役会を開催する。
- ④定例取締役会において月次業績の分析・評価を行い、必要な措置を講ずる。

(5) 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ①グループ会社管理規程その他関連規程に基づき、子会社から子会社の職務執行及び事業状況を報告させる。
- ②当社及び子会社のコンプライアンス体制の構築を図り、当社及び子会社において、役職員に対するコンプライアンス教育、研修を継続的に実施する。
- ③当社及び子会社の業務執行は、各社における社内規程に従って実施し、社内規程については随時見直しを行う。
- ④子会社の規模に応じて当社又は子会社にリスク管理体制を整備し、連携して情報共有を行うものとする。
- ⑤当社内部監査室は、当社及び子会社の業務全般に関する監査を実施し、検証及び助言等を行う。

(6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役が求めた場合、監査役の職務を補助する使用人を配置するとともに、配置に当たっての具体的な内容（組織、人数、その他）については、監査役と相談し、その意見を十分考慮して検討する。

(7) 監査役職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役職務を補助すべき使用人の独立性を確保するため、監査役から監査業務に必要な命令を受けた使用人は、その命令に関して、取締役、部長等の指揮命令を受けない。

(8) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他監査役への報告に関する体制及び当該報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- ①取締役及び使用人は、監査役の求めに応じて当社及び子会社の業務執行状況及び内部監査の実施状況を報告する。
- ②取締役は、当社及び子会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見した場合は、直ちに監査役に報告する。
- ③監査役へ報告を行った取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を社内規程に明記する。

(9) 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行について、当社に対し、費用の前払又は償還等の請求をしたときは、

当該請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

(10) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 監査役は、監査役監査基準等に基づき、取締役会及びその他重要な会議に出席するとともに、議事録、稟議書等業務に関する重要な文書を閲覧、必要に応じて取締役又は使用人にその説明を求めることができる。
- ② 代表取締役は、監査役との間で適宜会合を持つ。
- ③ 監査役は、会計監査人と適宜会合を持ち、会計監査内容についての説明を受け、情報交換など連携を図る。
- ④ 監査役は、内部監査室と緊密な連携を保ち、定期的に情報交換を行う。

(11) 財務報告の信頼性を確保する体制

財務報告の信頼性を確保するため、財務報告に係る内部統制に関する基本方針書を制定し、適切な財務情報を作成するために必要な体制・制度の整備・運用を組織的に推進するとともに、統制活動の有効性について継続的に評価し、必要に応じて統制活動の見直しを図る。

(12) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

- ① 市民生活の秩序や安全に脅威を与え、健全な経済・社会生活の発展を妨げる反社会的勢力と関係を持つことは、会社の事業継続に重大な影響を及ぼすものであるという考えの下、反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関わりを持たないことを企業行動憲章において宣言する。
- ② 反社会的勢力の経営活動への関与や当該勢力が及ぼす被害を未然に防止するため、反社会的勢力排除規程を制定し、反社会的勢力排除のための社内体制の整備を推進する。具体的には、不当要求防止責任者の設置及び講習の受講、反社会的勢力の排除を目的とする外部専門機関との連携、反社会的勢力に係る情報の収集及び報告体制の構築、事前審査の強化及び役職員向けの研修の実施等の取り組みを推進する。

## 2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、取締役会で定めた「内部統制システムの整備に関する基本方針」を取締役会において定期的に見直すことにより、継続的な業務の適正の確保に努めております。

コンプライアンス委員会及び内部統制委員会の定期的な開催を通じて、内部統制システムの運用状況のモニタリング及び見出された問題に対する是正措置等を実施し、その結果を取締役会へ報告することにより、内部統制システムを適切に運用しております。

また、常勤監査役は、取締役会その他重要な会議に出席するとともに、代表取締役、会計監査人及び内部監査室と定期的に会合を持つことにより、業務執行の状況を日常的に監視しております。

## 連結株主資本等変動計算書

( 2021 年 3 月 1 日から  
2022 年 2 月 28 日まで )

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計
当 期 首 残 高	521,183	456,183	3,624,479	△317,732	4,284,113
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△179,402		△179,402
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			703,470		703,470
自 己 株 式 の 取 得				△92,386	△92,386
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 ( 純 額 )					
当 期 変 動 額 合 計	—	—	524,067	△92,386	431,681
当 期 末 残 高	521,183	456,183	4,148,547	△410,119	4,715,795

	その他の包括利益累計額		新 株 予 約 権	非支配 株主持分	純 資 産 合 計
	為替換算 調整勘定	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計			
当 期 首 残 高	31	31	—	27,194	4,311,340
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当					△179,402
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益					703,470
自 己 株 式 の 取 得					△92,386
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 ( 純 額 )	3,956	3,956	162,819	△13,834	152,941
当 期 変 動 額 合 計	3,956	3,956	162,819	△13,834	584,623
当 期 末 残 高	3,987	3,987	162,819	13,360	4,895,963

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

連結子会社の名称

株式会社カインドオル

Treasure Factory (Thailand) Co.,Ltd.

株式会社ゴルフキッズ

株式会社ピックアップジャパン

株式会社トレファクテクノロジーズ

台灣寶物工廠股份有限公司

(連結範囲の変更)

株式会社トレファクテクノロジーズは会社分割（新設分割）により設立したため、また、台灣寶物工廠股份有限公司は新たに設立したため当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

株式会社デジタルクエストは2022年2月28日に全株式を売却したため、連結範囲から除外しております。

#### (2) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社と連結決算日は一致しておりますが、Treasure Factory (Thailand) Co.,Ltd.及び台灣寶物工廠股份有限公司は決算日が11月30日であります。連結計算書類の作成にあたってはTreasure Factory (Thailand) Co.,Ltd.及び台灣寶物工廠股份有限公司の11月30日現在の計算書類を使用しておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### (3) 会計方針に関する事項

##### ①有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のないもの

移動平均法による原価法

##### ②たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品（個別バーコード管理商品）……個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

（上記以外の商品）……………移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

貯蔵品……………最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

##### ③固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……………定率法

ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除

く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法。また、レンタル資産については定額法。なお主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～27年
構築物	10～20年
工具、器具及び備品	3～8年
レンタル資産	2年

無形固定資産……………定額法

のれんについては、その支出の効果の及ぶ期間(10年)に基づく定額法を採用し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

#### ④繰延資産の処理方法

株式交付費……………支出時に全額費用処理しております。

#### ⑤引当金の計上基準

貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権は貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権は個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金……………従業員に対する賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

株主優待引当金……………株主優待制度に基づく費用の発生に備えるため、翌連結会計年度において発生すると見込まれる額を計上しております。

ポイント引当金……………ポイントカードの使用による費用発生に備えるため、使用実績率に基づき将来において発生すると見込まれる額を計上しております。

返品調整引当金……………将来発生する見込みの返品による費用発生に備えるため、返品実績率に基づき翌連結会計年度において発生すると見込まれる額を計上しております。

#### ⑥重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物等為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

#### ⑦消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。



## 2. 会計方針の変更

該当事項はありません。

## 3. 表示方法の変更

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度から適用し、連結計算書類に(会計上の見積りに関する注記)を記載しております。

## 4. 会計上の見積りに関する注記

当社グループが行った、連結計算書類作成における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、次のとおりであります。

### (1) 固定資産の減損

#### ① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

有形固定資産・無形固定資産・投資その他の資産の合計：4,257,871千円

うちリユース事業に関する店舗資産の合計：1,974,627千円

#### ② 会計上の見積りの内容について連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

当社グループは、主要な事業としてリユース事業を営んでおり、減損の兆候を判定するに当たっては、原則として店舗資産単位を資産グループとしてグルーピングしており、連結会計年度の末日に店舗ごとに減損の兆候の有無を検討しております。減損の兆候が認められる店舗については、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定し、減損損失の認識が必要とされた場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として計上しております。

当連結会計年度において、当社グループの直営店188店舗のうち、一部の店舗で減損の兆候が認められております。それはドミナント戦略を行っている地域以外では、未だ店舗数が少なく知名度が高くないことから、店舗の収益性が低い傾向にあり、そのような店舗を中心に営業損益が継続的にマイナスになったことなどによるものです。

減損損失の認識の要否の判定において使用される割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、取締役会にて承認された翌期の事業計画を基礎として、個別店舗の売上成長率、売上総利益率及び販売費及び一般管理費の予測を主要な仮定として織り込んで作成しておりますが、当該仮定は将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際の営業実績が見積りと異なった場合には、減損損失の計上に伴い、翌連結会計年度の連結計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

### (2) たな卸資産の評価

#### ① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

商品:4,014,226千円

#### ② 会計上の見積りの内容について連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

当社は、商品の評価について、正味売却価額が取得原価を下回る場合には、取得原価を正味売却価額まで減額しております。加えて、滞留による収益性の低下の事実を反映するために、仕入年度から一定の期間を超える商品を滞留在庫として帳簿価額を切り下げております。

滞留による収益性の低下の判断においては、直近の販売実績や今後の需要予測に照らした販売可能性、及び滞留在庫の判定に用いた一定の期間を主要な仮定としていますが、当該仮定は将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際の販売実績が見積りと異なった場合、帳簿価額の切り下げに伴い、翌連結会計年度の連結計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

## 5. 連結貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産

建 物	16,631千円
土 地	141,555千円
計	158,186千円

上記物件は長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）及び短期借入金140,000千円の担保に供しております。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,621,597千円

## 6. 連結損益計算書に関する注記

(1) 関係会社株式売却益 17,141千円

関係会社株式売却益は、システム事業を行っていた株式会社デジタルクエストの株式に係る売却益です。

## 7. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数 ……普通株式 11,598,800株

(2) 自己株式の種類及び総数 ……普通株式 484,431株

### (3) 剰余金の配当に関する事項

#### ① 配当金支払額等

・株式の種類	普通株式
・配当金の総額	89,701千円
・1株当たり配当金額	8.0円
・基準日	2021年2月28日
・効力発生日	2021年5月31日

#### ② 配当金支払額等

・株式の種類	普通株式
・配当金の総額	89,701千円
・1株当たり配当金額	8.0円
・基準日	2021年8月31日
・効力発生日	2021年11月1日

③ 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

・株 式 の 種 類	普通株式
・配当金の総額	100,029千円
・配 当 の 原 資	利益剰余金
・ 1 株当たり配当金額	9.0円
・基 準 日	2022年2月28日
・効 力 発 生 日	2022年5月26日

## 8. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、そのほとんどが顧客のクレジットカード決済による売上代金の未収金であります。

敷金及び保証金は、主に店舗等の賃貸借契約に伴うものであり、契約先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、クレジット会社以外の顧客への売上債権が発生した場合には、顧客ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、主な顧客の信用状況を把握する体制をとっております。

敷金及び保証金については、契約締結前に契約先の信用状況及び対象物件の権利関係などの確認を行うとともに、契約先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。

② 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することがあります。

2022年2月28日現在における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,360,856	2,360,856	—
(2) 売掛金	643,971	643,971	—
(3) 敷金及び保証金	1,695,875	1,684,169	△11,706
資産計	4,700,703	4,688,997	△11,706
(1) 買掛金	58,790	58,790	—
(2) 短期借入金	1,792,403	1,792,403	—
(3) 未払法人税等	286,785	286,785	—
(4) 長期借入金※	2,545,553	2,547,007	1,454
負債計	4,683,531	4,684,986	1,454

※ 長期借入金には1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価と帳簿価額は近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 敷金及び保証金

敷金及び保証金については、将来キャッシュ・フローを連結会計年度末から返還までの見積期間に基づき、国債の利回り等に信用リスクを加味した利率で割引いた現在価値によっております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは、短期間で決済されるため、時価と帳簿価額は近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合の想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額7,606千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが困難なため、上表には含めておりません。

## 9. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	424.66円
1株当たり当期純利益	62.78円

## 10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 11. 減損損失に関する注記

当社グループは以下の資産について減損損失を計上しました。

場 所	用 途	種 類	減 損 損 失 (千円)
東京都	店舗	建物及び構築物、その他	44,752
埼玉県	店舗	建物及び構築物、その他	8,602
千葉県	店舗	建物及び構築物、その他	16,411
茨城県	店舗	建物及び構築物、その他	24,503
兵庫県	店舗	建物及び構築物、その他	19
大阪府	店舗	建物及び構築物、その他	35,318
愛知県	店舗	建物及び構築物、その他	31,027
-	システム事業	のれん	56,171
合計			216,808

当社グループは、独立したキャッシュ・フローを生成する最小単位として、店舗を基本単位としてグルーピングをしております。

当該店舗は、共通費負担後の営業損益で営業損失が継続しており、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る店舗及び退店の意思決定をした店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（160,637千円）として計上しております。

その内訳は、建物及び構築物111,249千円、その他49,388千円であります。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、零として評価しております。

また、システム事業にかかるのれんについて、事業計画の策定に際し将来の不確実性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（56,171千円）として計上しております。なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、零として評価しております。

## 12. その他の注記

(企業結合等関係)

連結子会社の会社分割及び株式譲渡

当社は、連結子会社である株式会社デジタルクエスト（以下、「デジタルクエスト」といいます。）に関する事業を分割して新たに設立する新設会社に承継させ、会社分割後のデジタルクエストの株式を譲渡いたしました。

### (1) 日程

デジタルクエストの新設分割に係る取締役会決議日	2021年12月14日
当社の新設分割に係る取締役会決議日	2021年12月15日
分割会社の株主総会決議日	2021年12月21日
会社分割の効力発生日（新設会社設立日）	2022年2月14日
分割会社の株式の売却	2022年2月28日

### (2) 会社分割による新設会社の名称

株式会社トレファクテクノロジーズ

### (3) 会社分割の方式

デジタルクエストを分割会社とし、システム開発受託事業ならびに事業推進・投資に係る事業を新設会社に承継する分割型新設分割です。

### (4) 事業分離を行った主な理由

当社は、2019年1月にシステム開発力の強化を目的に、デジタルクエストを連結子会社化しました。それ以降、当社とデジタルクエストは、BtoBオークション事業のシステムをはじめグループ内の各種システムやアプリなどの開発を共同で行ってまいりました。今後、システム開発力をより高め、当社グループにおけるシステム、ECサイト、アプリなどの各サービスの開発スピードを高めていくために、デジタルクエストを分割し、システム開発事業等を担う「株式会社トレファクテクノロジーズ」を当社の連結子会社として新設いたしました。なお、デジタルクエストには、本件事業以外の事業としてメディアコンテンツ事業のみ残りますが、当該事業は当社グループとのシナジーが見込めないことから、デジタルクエストの株式を外部第三者へ売却いたしました。

### (5) 新設分割に係る割当ての内容

新設会社は、本会社分割に際して普通株式10,675株を発行し、そのすべてを分割会社であるデジタルクエストに割当交付いたします。なお、デジタルクエストは、これと同時にデジタルクエストに割り当てられた全株式をデジタルクエストの株主に対しその保有株式割合に応じ、剰余金の配当として交付いたしました。

新設分割当事会社の概要

	分割会社	新設会社
名称	株式会社デジタルクエスト	株式会社トレファクテクノロジーズ
事業内容	メディアコンテンツ事業	システム開発受託事業ならびに事業推進・投資に係る事業
設立年月日	2014年1月6日	2022年2月14日
大株主及び持株比率	当社 53.1% 鮫島洋幸 7.9% 自己株式 39.0%	当社 87.1% 鮫島洋幸 12.9%
資本金	10,000千円	10,000千円

当社は本会社分割後にデジタルクエスト代表取締役社長鮫島洋幸氏から新設会社の株式の持ち分をすべて取得いたしました。

(6) 実施した会計処理の概要

本会社分割は「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。会社分割による損益は発生いたしません。また本会社分割後にデジタルクエストの株式を売却し、当連結会計年度の連結損益計算書に係る会社株式売却益として17,141千円を計上しております。

(7) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内容

	2022年2月期
流動資産 (千円)	20,012
固定資産 (千円)	11,891
資産合計 (千円)	31,903
流動負債 (千円)	11,563
負債合計 (千円)	11,563

(8) 当期の連結損益計算書に含まれる分離した事業（デジタルコンテンツ事業）に係る損益の概算額

	2022年2月期
売上高 (千円)	185,031
営業損失 (千円)	△22,646

## 株主資本等変動計算書

( 2021 年 3 月 1 日から  
2022 年 2 月 28 日まで )

(単位：千円)

	株 主 資 本							
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金		自己株式	株 主 資 本 計
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 計	そ の 他 利 益 剰 余 金 計	利 益 剰 余 金 計		
当 期 首 残 高	521,183	456,183	—	456,183	3,700,855	3,700,855	△317,732	4,360,489
当 期 変 動 額								
剰 余 金 の 配 当					△179,402	△179,402		△179,402
当 期 純 利 益					405,070	405,070		405,070
自己株式の取得							△92,386	△92,386
株主資本以外の 項目の当期変動 額 (純額)								
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	225,667	225,667	△92,386	133,281
当 期 末 残 高	521,183	456,183	—	456,183	3,926,523	3,926,523	△410,119	4,493,771

	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
当 期 首 残 高	—	4,360,489
当 期 変 動 額		
剰 余 金 の 配 当		△179,402
当 期 純 利 益		405,070
自己株式の取得		△92,386
株主資本以外の 項目の当期変動 額 (純額)	162,819	162,819
当 期 変 動 額 合 計	162,819	296,101
当 期 末 残 高	162,819	4,656,591



## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式	移動平均法による原価法
其他有価証券	
市場価格のないもの	移動平均法による原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品（個別バーコード管理商品）	個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
（上記以外の商品）	移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
貯蔵品	最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産	定率法
	ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法。また、レンタル資産については定額法。なお主な耐用年数は次のとおりであります。
建物	3～27年
構築物	3～20年
工具、器具及び備品	2～13年
レンタル資産	2年
無形固定資産	定額法
	ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

#### (4) 繰延資産の処理方法

株式交付費	支出時に全額費用処理しております。
-------	-------------------

#### (5) 引当金の計上基準

貸倒引当金	債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権は貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権は個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
賞与引当金	従業員に対する賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。
株主優待引当金	株主優待制度に基づく費用の発生に備えるため、翌事業年度において発生すると見込まれる額を計上しております。
ポイント引当金	ポイントカードの使用による費用発生に備えるため、使用実績率

に基づき将来において発生すると見込まれる額を計上しております。

返品調整引当金……………将来発生する見込みの返品による費用発生に備えるため、返品実績率に基づき翌事業年度において発生すると見込まれる額を計上しております。

(6) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

## 2. 会計方針の変更

該当事項はありません。

## 3. 表示方法の変更

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度から適用し、計算書類に(会計上の見積りに関する注記)を記載しております。

## 4. 会計上の見積りに関する注記

当社が行った、計算書類作成における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、次のとおりであります。

(1) 固定資産の減損

①当事業年度の計算書類に計上した金額

有形固定資産・無形固定資産・投資その他の資産の合計：4,718,010千円

うちリユース事業に関する店舗資産の合計：1,404,192千円

②会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

連結注記表の会計上の見積りに関する注記に記載した内容と同一であるため、記載を省略しております。

(2) 棚卸資産の評価

①当事業年度の計算書類に計上した金額

商品：3,049,056千円

②会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

連結注記表の会計上の見積りに関する注記に記載した内容と同一であるため、記載を省略しております。

## 5. 貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産

建	物	16,631千円
土	地	141,555千円
計		158,186千円

上記物件は長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）及び短期借入金140,000千円の担保に供しております。

### (2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,105,310千円

### (3) 偶発債務に関する注記

関係会社の金融機関からの借入金に対する保証

株式会社カインドオル	570,179千円
株式会社ピックアップジャパン	474,168千円

### (4) 関係会社に対する金銭債権・金銭債務

金銭債権	172,526千円
金銭債務	934千円

## 6. 損益計算書に関する注記

### (1) 関係会社との取引

売上高	11,108千円
仕入高	17,586千円
営業取引以外の取引高	16,318千円

### (2) 関係会社株式評価損

関係会社株式評価損 130,588千円は、システム事業を行っていた株式会社デジタルクエストの株式に係る評価損です。

### (3) 関係会社株式売却益

関係会社株式売却益 21,035千円は、システム事業を行っていた株式会社デジタルクエストの株式に係る売却益です。

## 7. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び総数 ……………普通株式 484,431株

## 8. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な因別の内訳

### 繰延税金資産

未払事業税	24,437千円
未払事業所税	11,323千円
賞与引当金	84,740千円
ポイント引当金	14,079千円
返品調整引当金	6,532千円
減損損失	150,001千円
資産除去債務	164,263千円
商品評価損	10,609千円
株式報酬費用	48,992千円
その他	57,167千円
繰延税金資産小計	572,149千円
評価性引当額	△209,012千円
繰延税金資産合計	363,136千円
繰延税金負債	
資産除去債務に対応する資産	△56,553千円
繰延税金負債合計	△56,553千円
繰延税金資産の純額	306,583千円

## 9. 関連当事者に関する注記

### (1) 子会社及び関連会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	株式会社 カインドオル	所有 直接100.0%	債務保証 役員の兼任	債務保証	570,179	-	-
子会社	株式会社 ピックアップ ジャパン	所有 直接100.0%	債務保証 役員の兼任	債務保証	474,168	-	-
子会社	Treasure Factory (Thailand) Co.,Ltd.	所有 直接49.9%	資金の貸付 役員の兼任	資金の返済	11,825	その他 流動資産 関係会社 長期貸付金	13,266 154,567

取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。  
なお、担保は受け入れておりません。
2. 債務保証については、銀行からの借入につき行ったものであり、期末残高を記載しております。  
なお、保証料は受け入れておりません。

### (2) 役員及び個人主要株主等

該当事項はありません。

## 10. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	404.32円
1株当たり当期純利益	36.15円

## 11. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 12. 減損損失に関する注記

当社は以下の資産について減損損失を計上しました。

場 所	用 途	種 類	減 損 損 失 (千円)
東京都	店舗	建物及び構築物、その他	43,762
埼玉県	店舗	建物及び構築物、その他	8,602
千葉県	店舗	建物及び構築物、その他	16,411
茨城県	店舗	建物及び構築物、その他	24,503
大阪府	店舗	建物及び構築物、その他	35,318
愛知県	店舗	建物及び構築物、その他	31,027
合計			159,627

当社は、独立したキャッシュ・フローを生成する最小単位として、店舗を基本単位としてグルーピングをしております。

当該店舗は、共通費負担後の営業損益で営業損失が継続しており、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る店舗及び退店の意思決定をした店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少価額を減損損失（159,627千円）として計上しております。

その内訳は、建物及び構築物110,744千円、その他48,883千円であります。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、零として評価しております。

(注) 貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書の数値は千円未満を切り捨てて表示しております。